

令和2年度第2回みよし市まち・ひと・しごと創生会議次第

と き：令和2年10月5日（月）

午後2時から

ところ：研修室1・2・3

1 あいさつ

2 議 題

第2期みよし市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定について

資料No1

資料No2

第2期みよし市まち・ひと・しごと創生

【人口ビジョン】

令和3年3月



目次

第1節 人口の現状分析	1
第2節 人口の将来展望	7

「※」の表記があるキーワードは、巻末に用語解説をしています。

(西暦・和暦対応表)

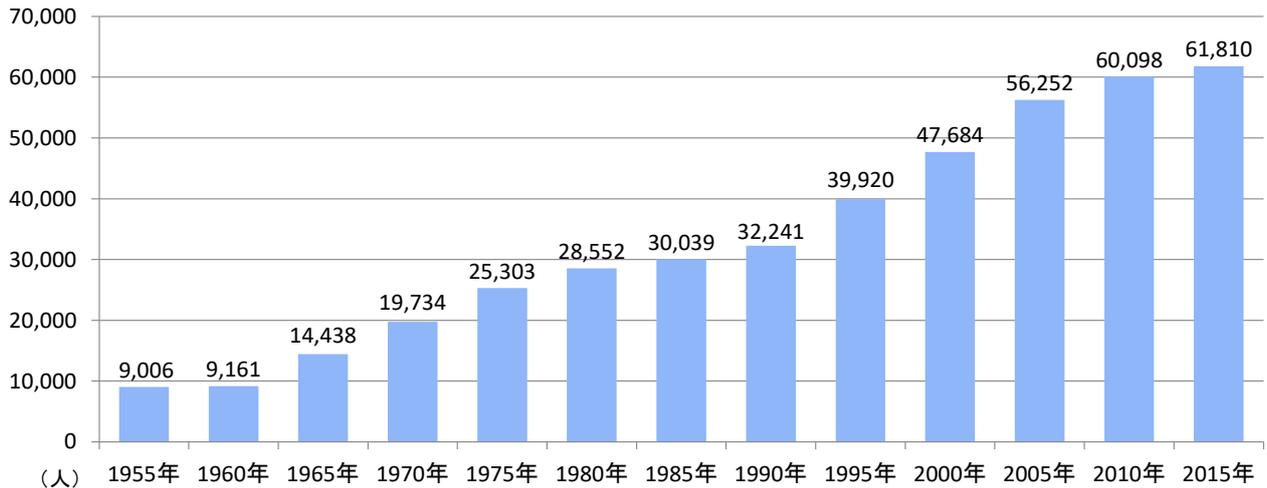
西暦	和暦	西暦	和暦	西暦	和暦
1955年	昭和30年	2000年	平成12年	2025年	令和7年
1960年	昭和35年	2005年	平成17年	2030年	令和12年
1965年	昭和40年	2010年	平成22年	2035年	令和17年
1970年	昭和45年	2015年	平成27年	2038年	令和20年
1975年	昭和50年	2016年	平成28年	2040年	令和22年
1980年	昭和55年	2017年	平成29年	2045年	令和27年
1985年	昭和60年	2018年	平成30年	2050年	令和32年
1990年	平成2年	2019年	平成31年(～4/30) 令和元年(5/1～)	2055年	令和37年
1995年	平成7年	2020年	令和2年	2060年	令和42年

第1節 人口の現状分析

(1) 人口の推移

本市の人口の推移をみると、昭和30(1955)年以降一貫して増加し続けており、平成27(2015)年では61,810人となっています。

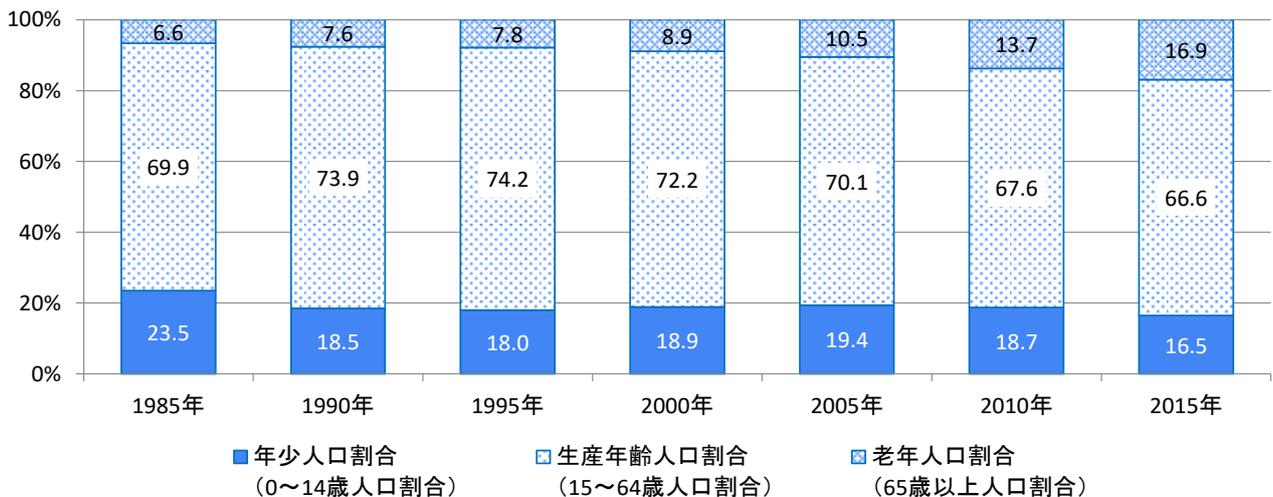
図表1 本市の人口の推移



出典) 国勢調査

年齢3区分の構成比の推移をみると、老年人口割合が増加し続けており、少子高齢化が進行しています。平成27(2015)年の年少人口割合は16.5%、生産年齢人口割合は66.6%、老年人口割合は16.9%となっています。

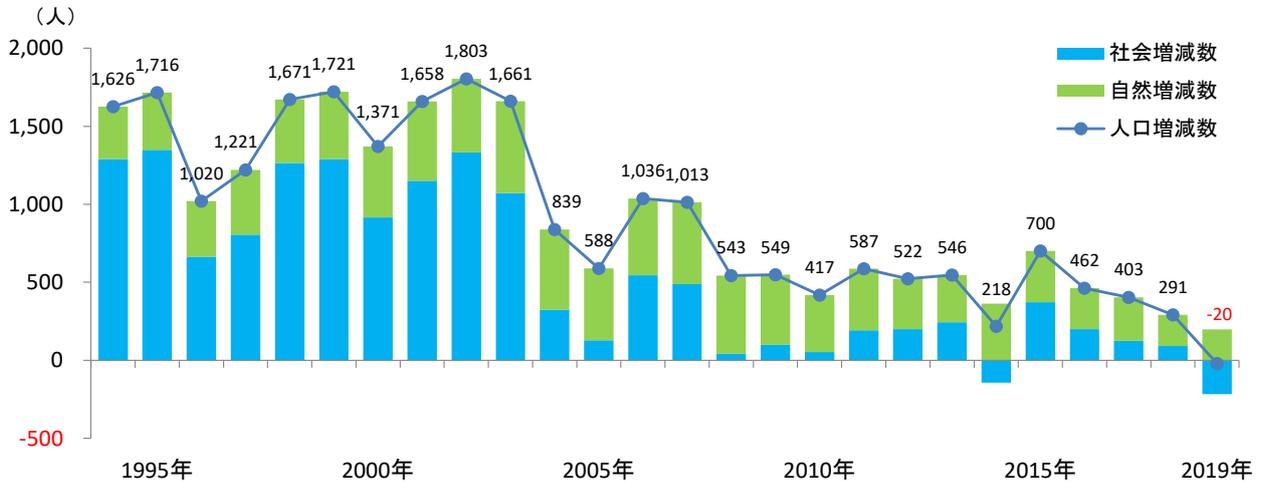
図表2 年齢3区分別人口構成の推移



出典) 国勢調査

平成6（1994）年から令和元（2019）年までの人口増減数（自然増減数と社会増減数の合計）の推移をみると、人口増の状態が続いていましたが、平成14（2002）年の1,803人をピークに緩やかな減少傾向にあり、令和元（2019）年は20人の人口減となっています。

図表3 自然増減と社会増減の推移

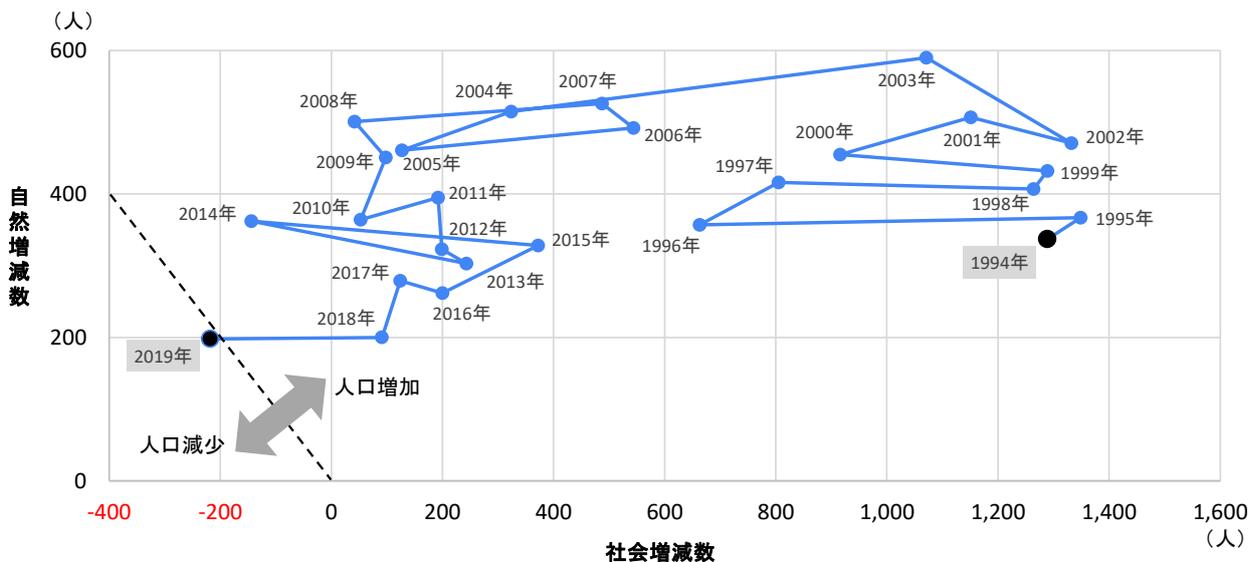


出典) 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

平成6（1994）年から令和元（2019）年までの自然増減数を縦軸に、社会増減数を横軸にしてプロットすると、以下の図になります。

本市では自然増・社会増により人口増加の状態が続いていましたが、近年は自然増・社会増がやや減少傾向にあり、人口減少のラインにかかっている状態です。

図表4 自然増減と社会増減の関係



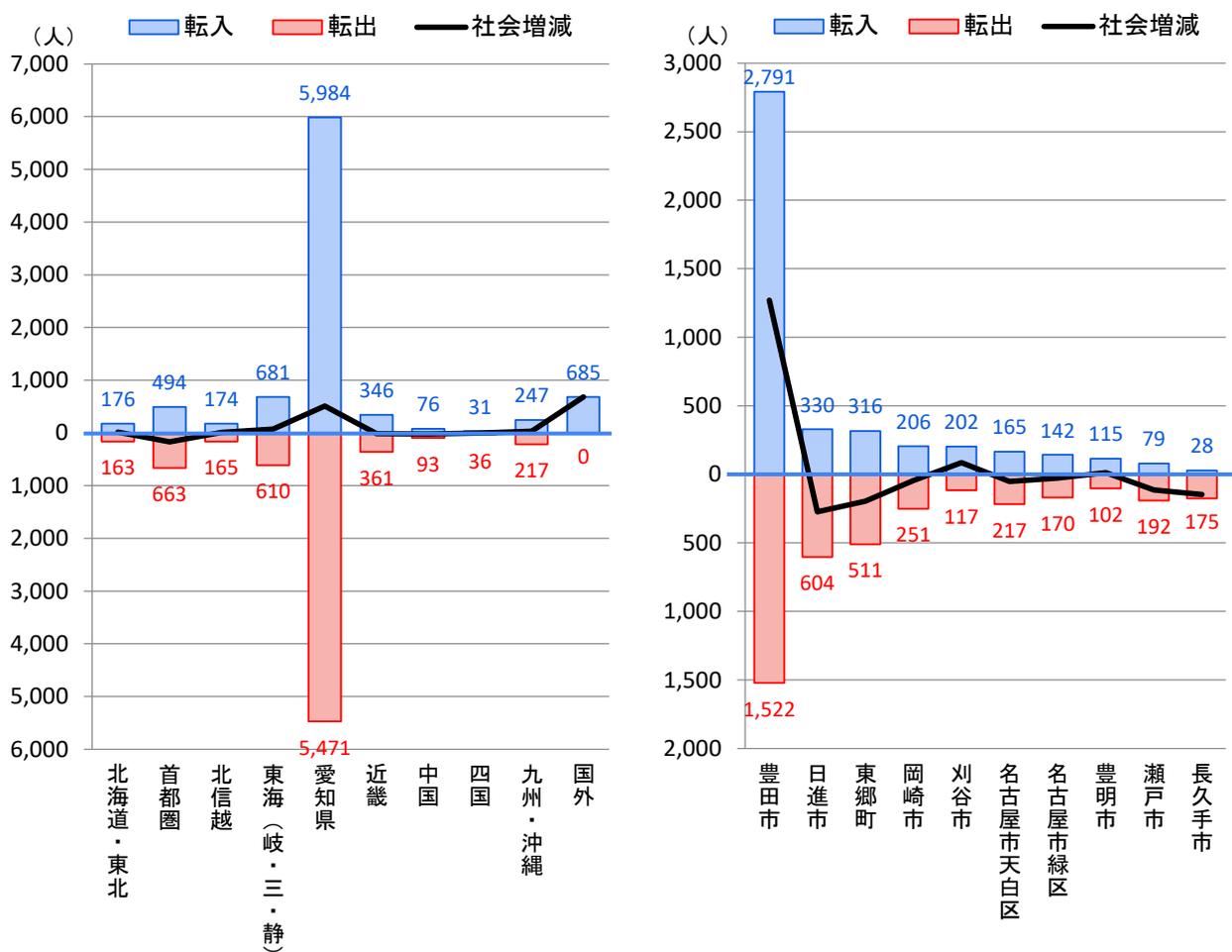
出典) 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

※斜めの点線より右側の領域は、自然増減と社会増減を合わせた増減がプラスとなっている領域で、人口増加となっていることを示し、点線より左側の領域は、自然増減と社会増減を合わせた増減がマイナスとなっている領域で、人口減少となっていることを示しています。

平成 27 (2015) 年における過去 5 年間の本市への転入者の転入元をみると、愛知県内が最も多く、次いで国内では愛知県以外の東海地域、首都圏が多くなっています。本市からの転出者の転出先も同様に愛知県内が最も多く、次いで首都圏、東海地域が多くなっています。社会増減をみると、国内では愛知県内が 513 人、東海地域が 71 人の転入超過となっており、一方、首都圏が 169 人の転出超過となっています。

近隣市町及び愛知県との過去 5 年間の人口移動状況をみると、転入・転出ともに豊田市が最も多く、次いで日進市、東郷町が多くなっています。社会増減の転入超過では、豊田市が 1,269 人、刈谷市が 85 人、豊明市が 13 人の増加となっており、一方、転出超過では、日進市が 274 人、東郷町が 195 人、長久手市が 147 人の減少となっています。

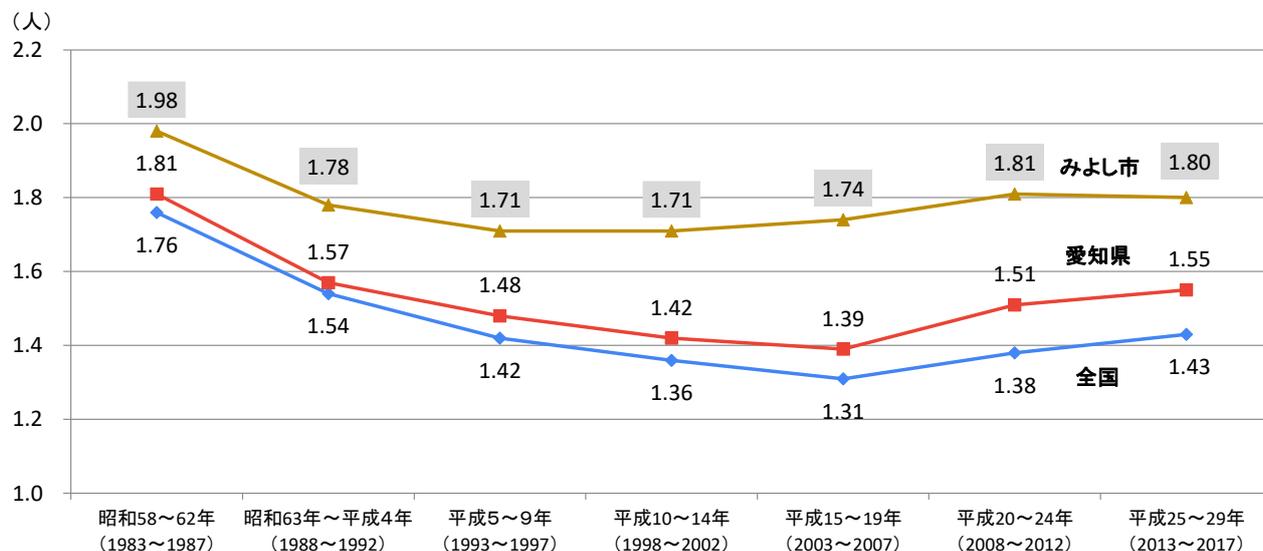
図表 5 本市の人口移動状況 (2010 年～2015 年)



出典) 国勢調査 (2015 年)

本市の合計特殊出生率※は全国や愛知県と比較して高い水準で推移しており、平成 25 (2013) 年～平成 29 (2017) 年の合計特殊出生率は 1.80 となっています。

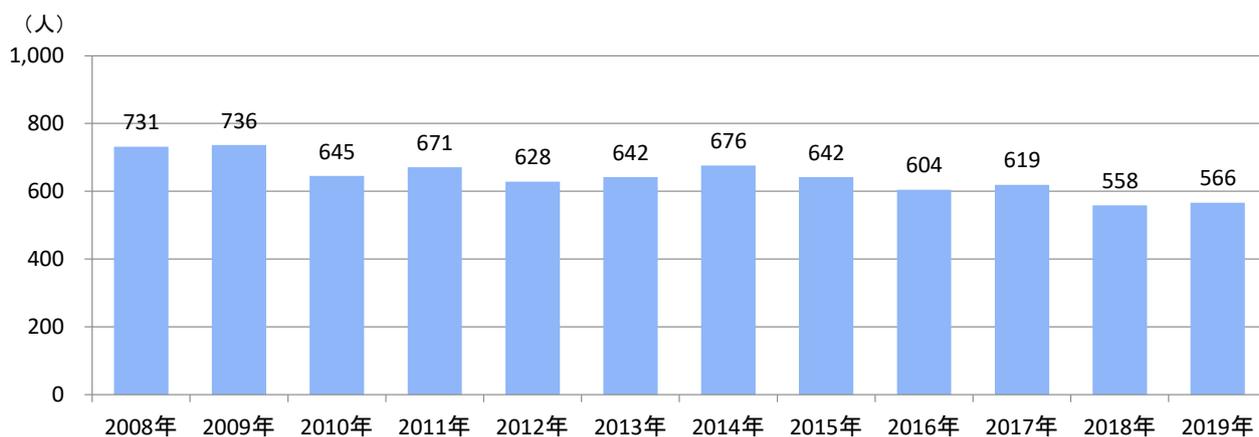
図表 6 合計特殊出生率の推移



出典) 厚生労働省「人口動態統計特殊報告」

本市の年間出生数の推移をみると、増減を繰り返していますが、平成 21 (2009) 年をピークに緩やかな減少傾向にあります。

図表 7 出生数の推移

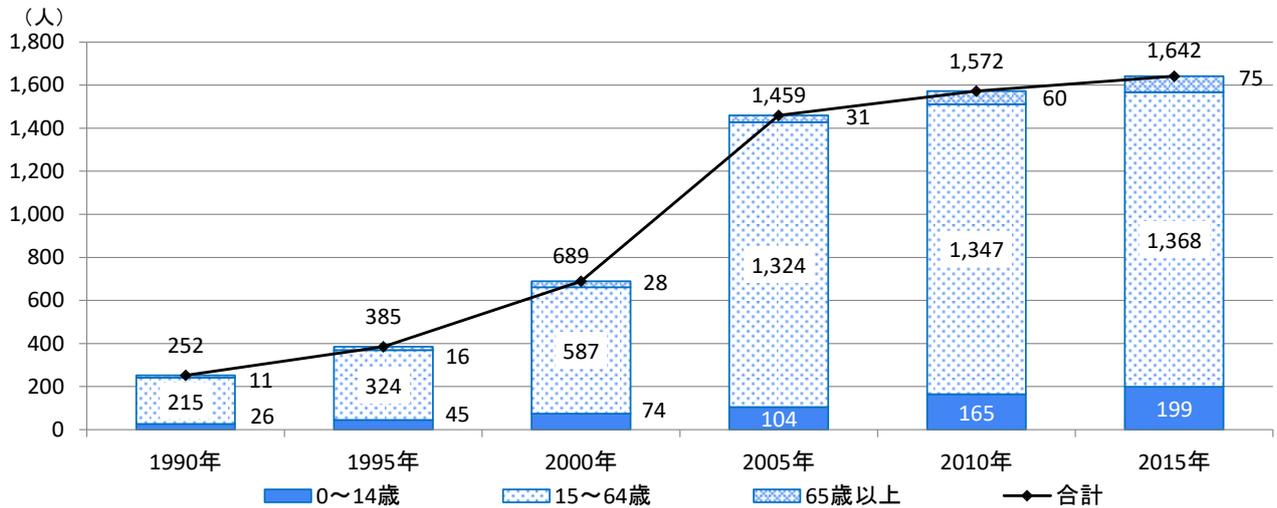


出典) 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」
(出生数は当該年度の住民票記載出生者数総計)

本市の外国人人口の推移をみると、平成2(1990)年以降増加し続けており、平成27(2015)年には1,642人となっています。

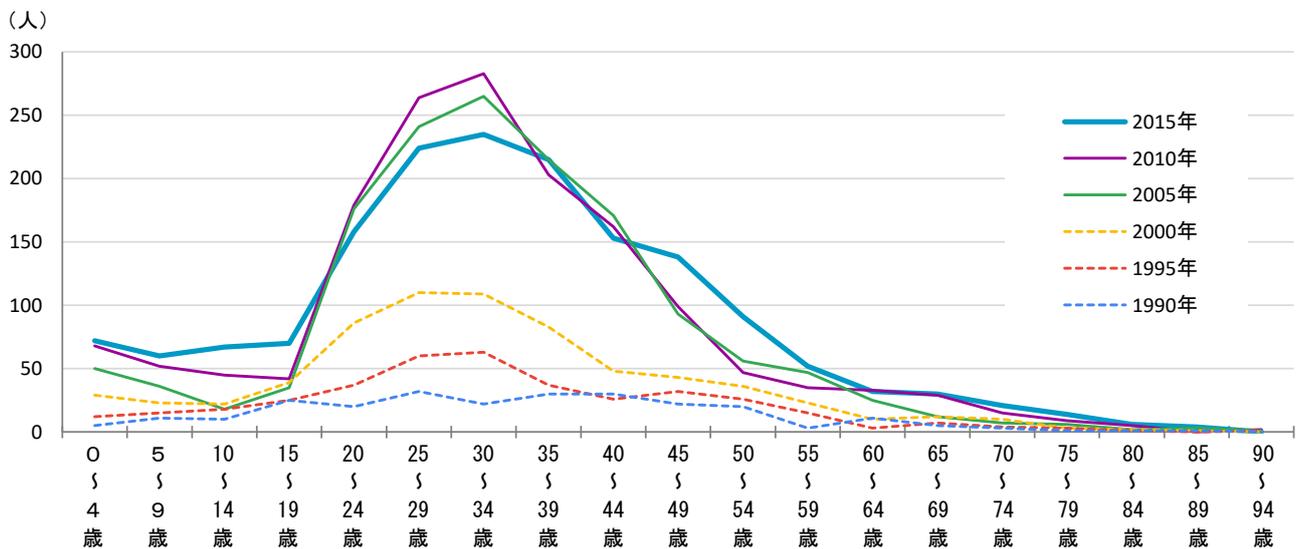
年齢5歳階級別でみると、20歳代～40歳代の外国人人口が大きく増加しています。いずれの年においても、25～29歳もしくは30～34歳の人数が他の年齢階級に比べて最も多くなっています。

図表8 本市の外国人人口の推移



出典) 国勢調査(外国人人口は国籍不詳を含み、年齢不詳を含まない)

図表9 本市の年齢階級別外国人人口の推移

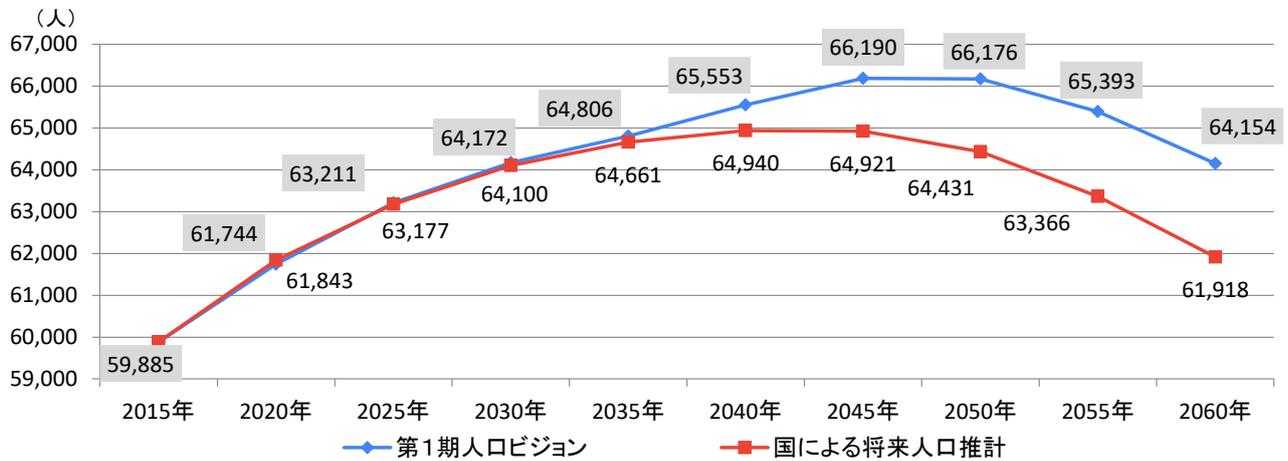


出典) 国勢調査(外国人人口は国籍不詳を含み、年齢不詳を含まない)

(2) 将来人口の推計

第1期みよし市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（以下「第1期人口ビジョン」という。）では、2060年に人口規模64,000人を維持することを目標に掲げ、令和27（2045）年にピーク人口66,000人となることを目指しました。

図表10 本市の将来目標人口（人口ビジョン）

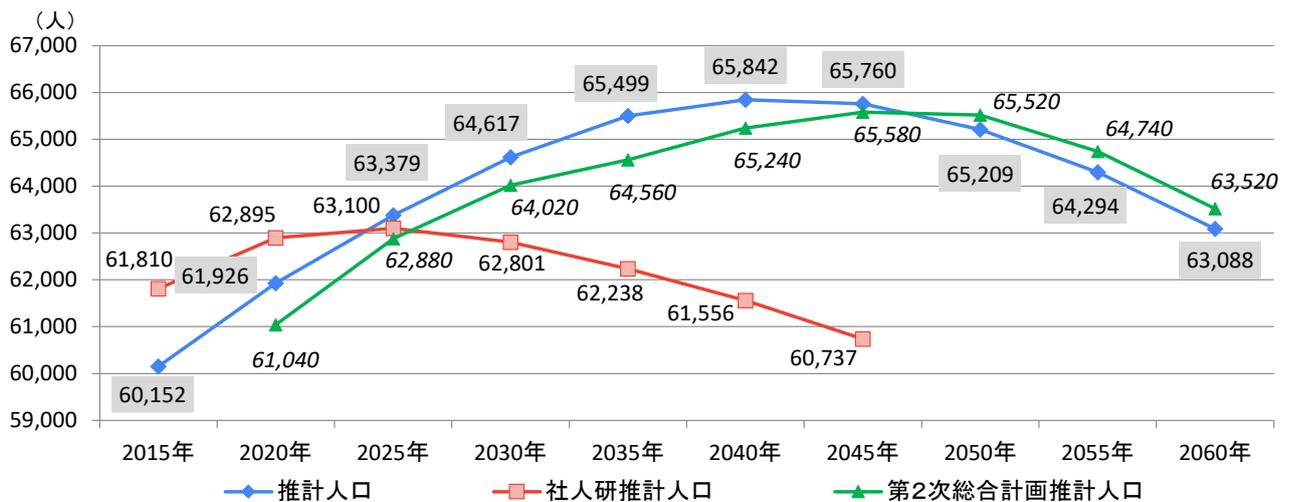


出典) 第1期人口ビジョン

これに対し、国立社会保障・人口問題研究所が2018年に推計した本市の将来人口は、令和7（2025）年以降は減少して令和27（2045）年には60,737人となると見込まれています。これは第1期人口ビジョンや第2次みよし市総合計画（以下「第2次総合計画」という。）の推計人口を大きく下回っています。実績値を基にコーホート要因法を用いて本市独自で推計した人口では、令和22（2040）年にピーク人口65,842人となり、以降は減少して令和27（2045）年に65,760人、令和42（2060）年に63,088人となると見込んでいます。

なお、この推計では結果的に第2次総合計画と同じような傾向が見られるため、上位計画に当たる第2次総合計画の人口見通しを次節の人口の将来展望とします。

図表11 本市の推計人口



出典) 推計人口：実績値（住民記録、2015～2018年の各年10月1日時点）を基にコーホート要因法を用いて推計した人口

社人研推計人口：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年推計）

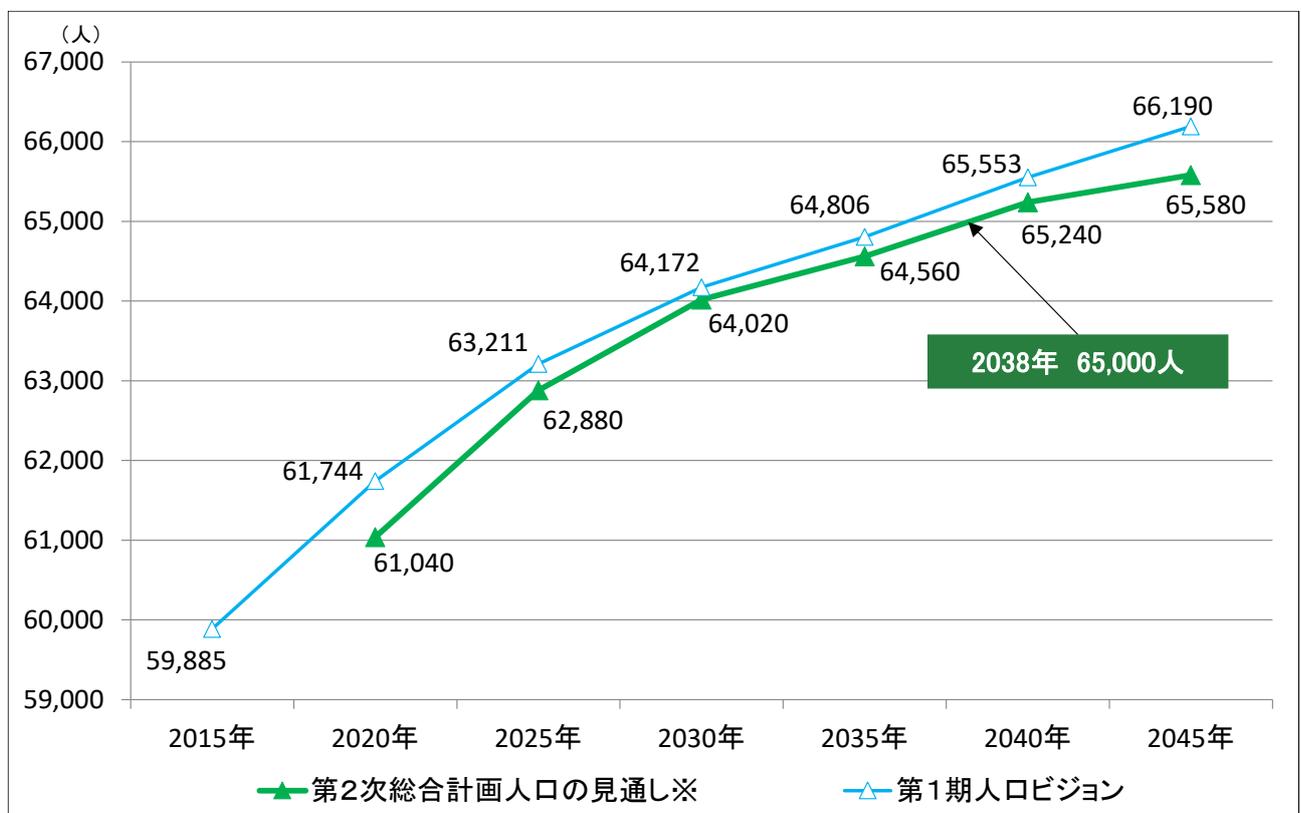
※2015年の値は実績値（推計人口：住民記録、社人研推計人口：国勢調査）

第2節 人口の将来展望

第1期人口ビジョンにおいては、合計特殊出生率・移動率を変数としたシミュレーションの結果、【合計特殊出生率及び移動率の維持＝自然増を促進し社会減を抑制】を目指すべき方向としました。

第2期みよし市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（以下「第2期人口ビジョン」という。）においても引き続きこれを目指すべき方向とし、また、推計人口が第2次総合計画人口の見通しに沿うものとなるよう、【令和20（2038）年に65,000人の人口を目指す】ものとしします。

図表12 第2期人口ビジョン



出典) 第2次総合計画、第1期人口ビジョン
 ※2020年の数値（基準人口）を同年4月1日時点の住民記録の実績値に変更

図表 13 第 2 期人口ビジョンにおける 3 つの基本的視点

<p>I 若い世代の就労・結婚・子育て・教育などの生活環境基盤の整備</p>	<p>○本市の年間出生数は緩やかな減少傾向にありますが、合計特殊出生率は国・県より高い水準を維持しています。</p> <p>○社会増減では、直近でわずかながら転出超過に転じており、増加傾向にある総人口の伸びが鈍化しています。20 歳代の若い世代が転入超過傾向にありましたが、近年この傾向が鈍化を示しています。</p> <p>→本市に居住する若い世代が安心して働き、出産し、家族で生活できる環境の整備に取り組むことを基本とします。</p>
<p>II 若年層を中心とした生産年齢人口の転入・定住の促進</p>	<p>○本市の生産年齢人口割合は平成 7（1995）年以降減少し続けています。人口減少や地域経済への影響の観点からも、この傾向に歯止めをかける施策が必要です。</p> <p>○平成 17（2005）年以降は 20 歳代の転入超過の一方、30 歳代から 50 歳代が転出超過傾向にあります。転出先は、近年は近隣市町への転出超過に加え、首都圏への転出超過もみられます。</p> <p>→生産年齢人口の転入及び定住の促進、特に若年層が本市で暮らしたいと思える環境の整備に取り組むことを基本とします。</p>
<p>III 健康寿命の一層の延伸</p>	<p>○健康な暮らしの実現は、個人の生活の質の低下を防ぐことになり、健康上問題がない状態で日常生活を送ることができる健康寿命を伸ばすことは重要なことです。また、こうしたことは、社会保障の負担軽減にもつながります。</p> <p>○平成 27（2015）年における本市の平均寿命は、男性 81.8 歳、女性 86.9 歳であり、男性は国・県よりも高く、女性はほぼ同水準にあります。なお、愛知県健康寿命は、全国で男性 3 位・女性 1 位です。</p> <p>→健康で暮らせるまちの実現は、市が持つ大きな魅力となり、転入・定住の促進にもつながると期待されることから、超高齢社会を見据え、健康寿命を延伸する環境の整備に取り組むことを基本とします。</p>



**第 2 期人口ビジョン
(2038 年に 65,000 人を目指す)**

第2期みよし市まち・ひと・しごと創生

【総合戦略】

令和3年3月



目 次

第1節	総合戦略の目的	1
第2節	総合戦略の位置づけ	2
第3節	総合計画との関係性	3
第4節	計画期間	3
第5節	第1期総合戦略の検証・第2期総合戦略の推進	4
第6節	第2期総合戦略への方向性	8
第7節	施策の体系（基本目標）	9
第8節	具体的な取組	10
第9節	自治体SDGsの推進に資する取組	24

第1節 総合戦略の目的

地方創生は、出生率の低下によって引き起こされる人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目的としています。

国においては、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び5か年の施策の基本的方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が平成26(2014)年12月27日に、それぞれ閣議決定されました。そして、第1期総合戦略の最終年にあたる令和元(2019)年6月21日に公表された「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」において、次期総合戦略の策定が明示され、令和元(2019)年12月20日に「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定されました。「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、2020年を初年度とする今後5か年の目標や施策の方向性が示され、「将来にわたって『活力ある地域社会』の実現」と「『東京一極集中』の是正」を目指すこととしています。

本市では、国の総合戦略等を勘案し、地方創生の充実・強化に向けて切れ目のない取組を進めることとし、「第2期みよし市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「第2期総合戦略」という。）は、第1期みよし市総合戦略（以下、「第1期総合戦略」という。）を踏襲した上で策定をします。

この中で、安定した人口構造を維持し、安心して子育てできる環境の向上を図るとともに、暮らしたいと思える環境を整え、誰もが健康に暮らせる環境を充実させるため、本市としての地方創生に取り組んでいきます。

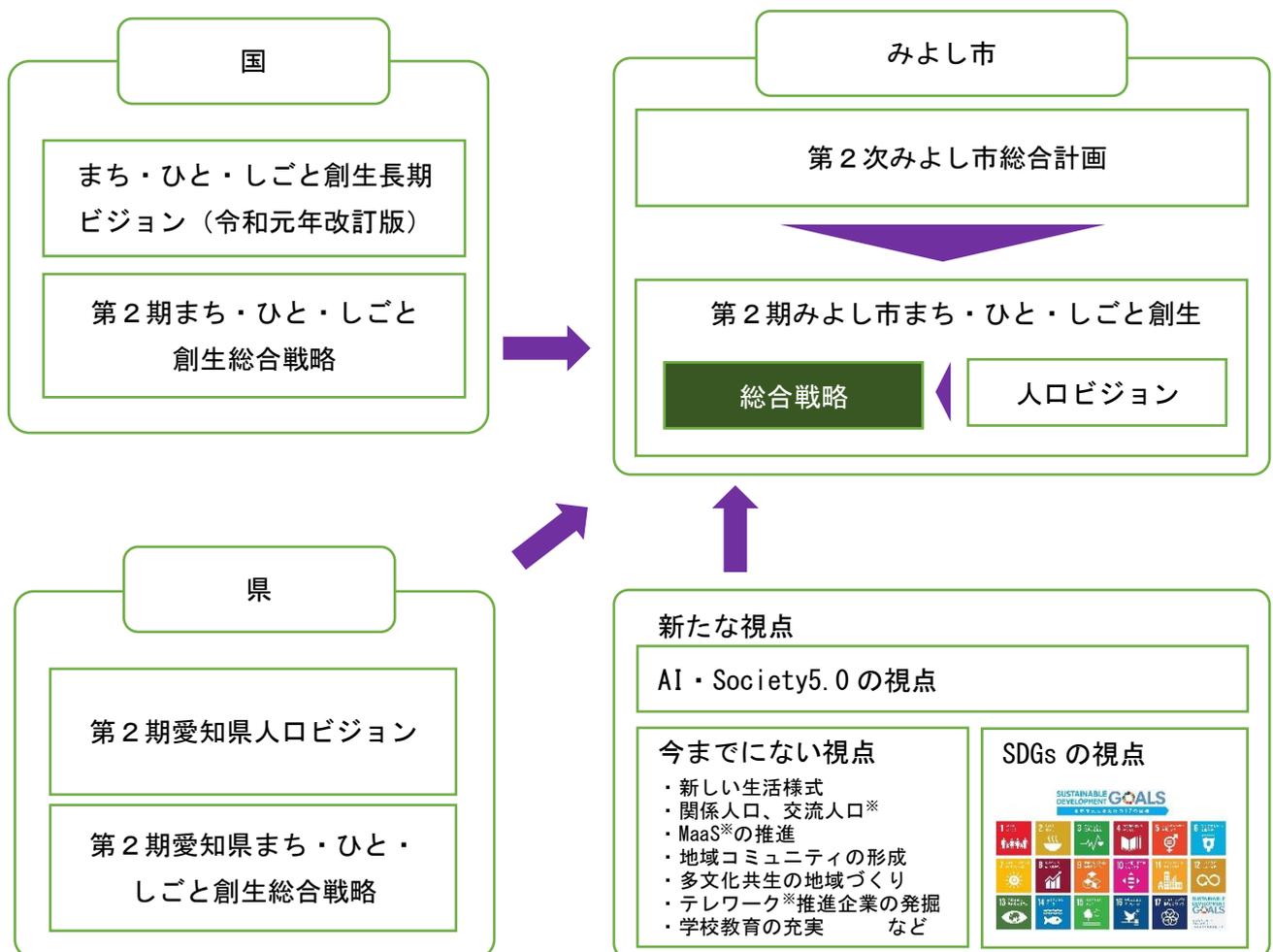


第2節 総合戦略の位置づけ

第2期総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法に基づき国が策定した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン(令和元年改訂版)」及び「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」、愛知県が策定した「第2期愛知県人口ビジョン」及び「第2期愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案しつつ、令和20(2038)年に65,000人の人口を目指す「第2期みよし市人口ビジョン」で示した人口の将来展望を踏まえ、みよし市の地方創生の基本目標を示し、これを実現するために重点的に取り組むべき施策の方向性を示すものです。

また、本市では、令和元(2019)年から令和20(2038)年までを計画期間とする第2次みよし市総合計画において「みんなで育む 笑顔輝く ずっと住みたいまち」を将来像として掲げており、第2期総合戦略では、総合計画との整合を図り、将来像の実現に寄与していくものでなくてはなりません。

戦略策定にあたっては、国が提示する「まち・ひと・しごと創生に向けた政策5原則(1)自立性、(2)将来性、(3)地域性、(4)総合性、(5)結果重視」を考慮します。また、近年急激に進展しているIoT^{*}やAI^{*}などの技術的革新をあらゆる産業や社会生活に取り入れることで社会課題を解決するSociety5.0^{*}の実現に向けた未来技術の活用や「持続可能な開発目標(SDGs)^{*}」の視点を取り入れるとともに、新しい生活様式などの今までにない視点も踏まえた策定を進めます。

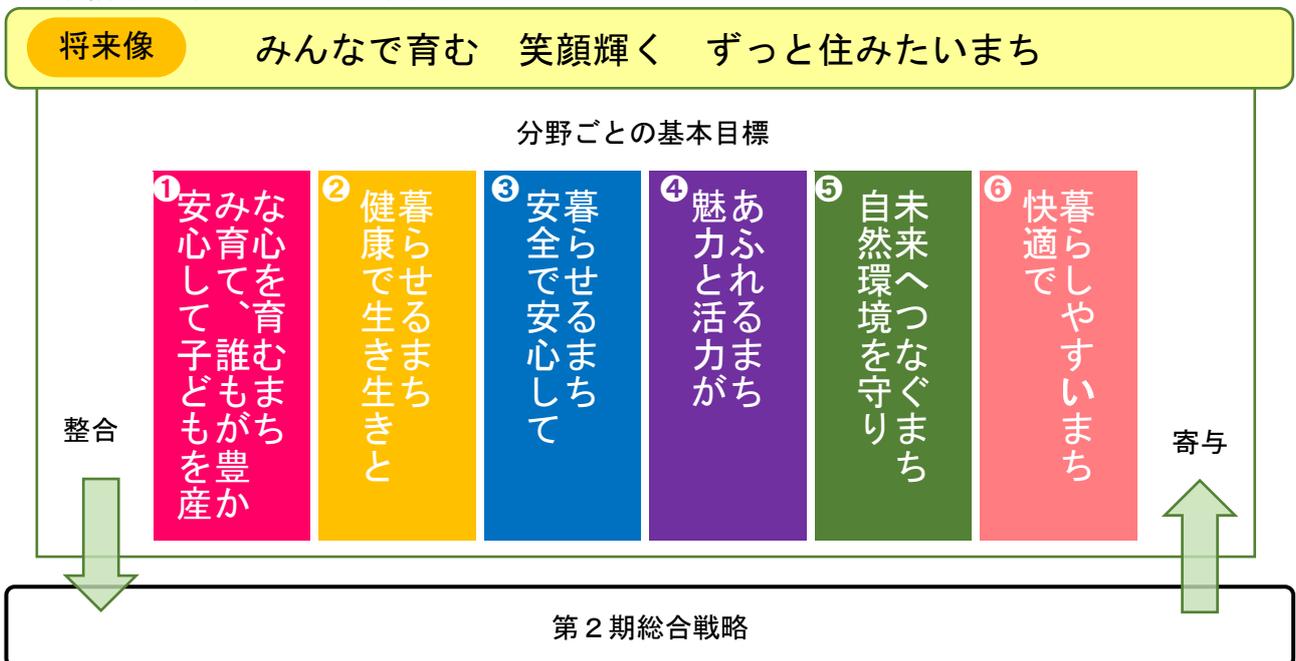


第3節 総合計画との関係性

第2次みよし市総合計画（以下、「総合計画」という。）は、【みんなで育む 笑顔輝く ずっと住みたいまち】を将来像に掲げ、令和元（2019）年度から令和20（2038）年度を計画期間として、平成31（2019）年3月に策定しました。

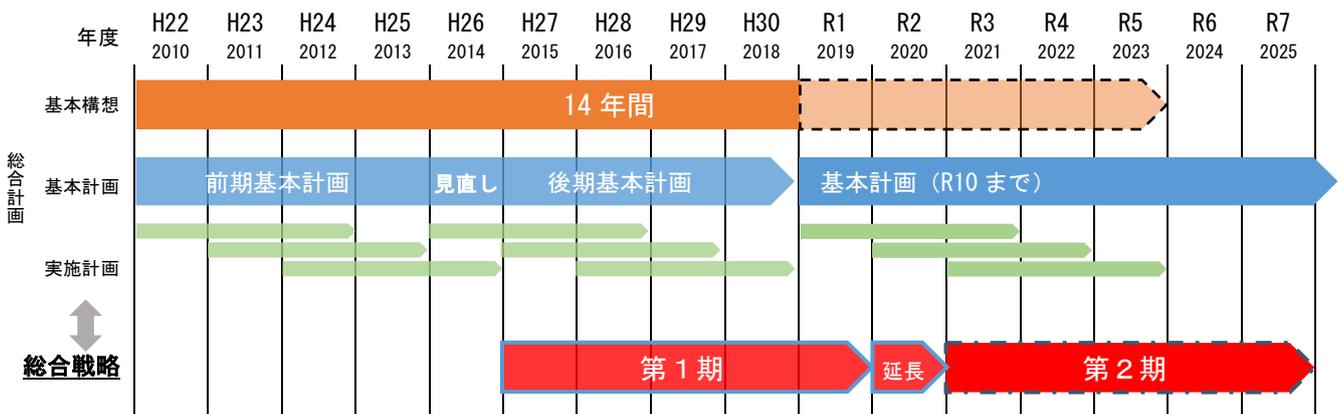
第2期総合戦略は、総合計画を上位計画とし、その他各分野の個別計画との整合を図りながら策定するものです。第2期総合戦略に位置付けた施策の方向性や取組については、総合計画の基本計画で示した施策に関連させ、総合計画の将来像や基本目標の実現に寄与するものとして位置付け、計画的に推進していきます。

基本構想（第2次みよし市総合計画）



第4節 計画期間

計画期間は、令和3（2021）年度から令和7（2025）年度までの5年間とします。



第5節 第1期総合戦略の検証・第2期総合戦略の推進

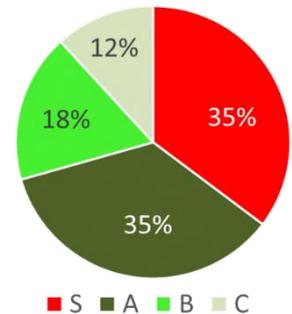
(1) 基本目標・基本的施策の達成状況

基本目標 I 安心して子育てできる環境づくり

基本目標	数値目標	基準値	実績	目標値	達成割合	
		平成 26 年度	令和元年度末	令和元年度末	実績÷目標値	評価
安心して子育てできる環境づくり	子育て支援の満足度	52.4%	> 39.9%	58.0%	68.8%	B
	教育の充実の満足度	56.3%	> 41.7%	62.0%	67.3%	B

基本目標 I に関する基本的施策

達成度	S	A	B	C	合計
施策の件数	6 件	6 件	3 件	2 件	17 件
評価別件数割合	35%	35%	18%	12%	100%



基本目標に関する基本的施策では、S 及び A の割合合計が 70% であり、概ね達成されているものの、基本目標における満足度の向上にはつながっていません。

「結婚・出産の希望に関する支援」は、C が 2 件あり達成割合がやや低い状況となっています。「子ども・子育てに関する支援」は、A 及び B となっており概ね達成しています。「学校教育の充実」と「仕事と生活の調和に関する支援」は S 及び A となっており高い達成となっています。

これらのことから、結婚・出産の希望に関する支援や子ども・子育てに関する支援については、ニーズに合ったさらなる充実が必要となります。

達成度の凡例

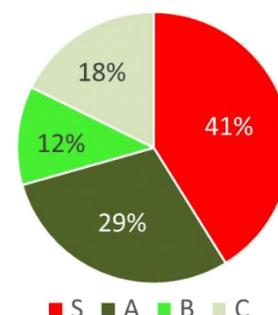
S : 達成割合 \geq 100% A : 100% > 達成割合 \geq 80%
 B : 80% > 達成割合 \geq 60% C : 60% > 達成割合

基本目標Ⅱ 暮らしたいと思える環境づくり

基本目標	数値目標	基準値	実績	目標値	達成割合	
		平成 26 年度	令和元年度末	令和元年度末	実績÷目標値	評価
暮らしたいと思える環境づくり	緑豊かで快適な美しいまちづくりの満足度	68.4%	> 46.9%	74.0%	63.4%	B
	安全で快適な住環境が整ったまちづくりの満足度	57.5%	> 33.4%	63.0%	53.0%	C

基本目標Ⅱに関する基本的施策

達成度	S	A	B	C	合計
施策の件数	7 件	5 件	2 件	3 件	17 件
評価別件数割合	41%	29%	12%	18%	100%



基本目標に関する基本的施策では、S 及び A の割合合計が 70% であり、概ね達成されているものの、基本目標における満足度の向上にはつながっていません。

「多様な世代を誘引する仕組みづくり」では、新たな進出企業数が C となっていますが、起業・創業件数は S となっています。

「公共交通ネットワークの確保」では、S 及び A となっていますが、公共交通対策の満足度は B であり、さんさんバスをはじめとする公共交通サービスの拡充などの質の向上が必要となります。

「安全・安心なまちづくり」では、概ね S 及び A となっていますが、耐震改修補助件数が C となっており、耐震改修に向けた支援の充実が必要となります。

「魅力と活力のあるまちづくり」では、シティプロモーション動画閲覧数は S、図書館来館者数は A となっており高い達成となっていますが、NPO 法人数は C となっています。このため、本市の魅力や強みを活かしつつ、ターゲットを明確化し魅力と活力のあるまちづくりに関するさらなる支援の充実が必要となります。

これらのことから、新たな進出企業に向けた支援の充実や公共交通の質の向上、激甚化する自然災害への対応、関係人口や交流人口を増加させる魅力あるまちづくりへの支援が必要となります。

達成度の凡例

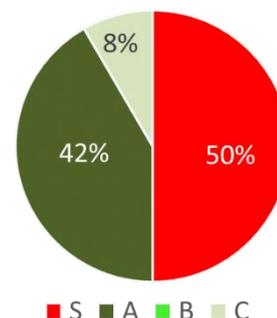
S : 達成割合 $\geq 100\%$	A : $100\% >$ 達成割合 $\geq 80\%$
B : $80\% >$ 達成割合 $\geq 60\%$	C : $60\% >$ 達成割合

基本目標Ⅲ 誰もが健康に暮らせる環境づくり

基本目標	数値目標	基準値	実績	目標値	達成割合	
		平成 26 年度	令和元年度末	令和元年度末	実績÷目標値	評価
誰もが健康に暮らせる環境づくり	福祉対策の充実の満足度	54.7%	> 39.2%	60.0%	65.3%	B
	保健・医療対策の充実の満足度	66.3%	> 45.3%	72.0%	62.9%	B

基本目標Ⅲに関する基本的施策

達成度	S	A	B	C	合計
施策の件数	6 件	5 件	0 件	1 件	12 件
評価別件数割合	50%	42%	0%	8%	100%



基本目標に関する基本的施策では、S 及び A の割合合計が 92% となっており、高い水準で概ね達成されているものの、基本目標における満足度の向上にはつながっていません。

「健康づくりの支援」では、S 及び A となっており高い達成となっています。

「生きがいくりの支援」では、概ね S 及び A となっていますが、生涯学習講座受講者数は C となっていることから、ニーズに合わせた魅力的な講座の開催の検討が必要となります。

これらのことから、さらなる健康づくりへの支援や生涯学習講座以外にも、誰もが活躍できる環境づくりに向けた取組が必要となります。

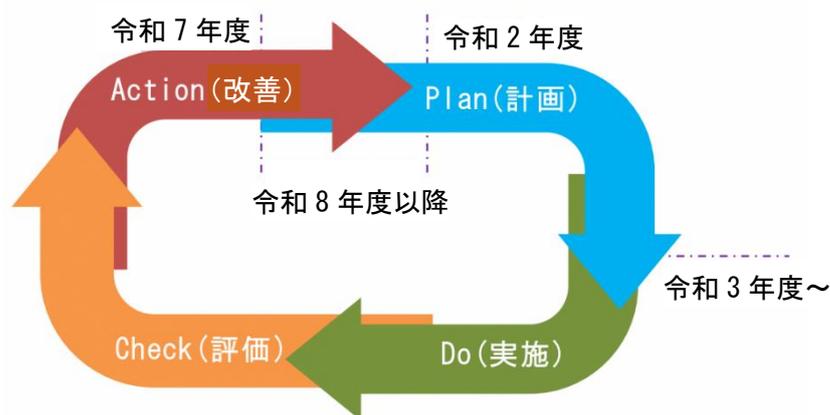
達成度の凡例

S : 達成割合 $\geq 100\%$ A : $100\% > \text{達成割合} \geq 80\%$
 B : $80\% > \text{達成割合} \geq 60\%$ C : $60\% > \text{達成割合}$

(2) 第2期総合戦略の推進

①施策の評価と検証

第2期総合戦略で示した個々の施策については、重要業績評価指標(KPI※)でその進捗や達成状況を評価し、適切な見直しや改善を加え次の事業につなげるため、第1期総合戦略と同様にPDCAサイクルに基づく管理を実施します。



②推進体制

第2期総合戦略の策定にあたっては、庁内で組織する「みよし市まち・ひと・しごと創生総合戦略・SDGs推進本部」により、事業の推進及び実施状況を検証するとともに、新たな目標値を設定し、事業の実施状況の検証を行いました。

さらに、市民をはじめ産業界や行政機関、教育機関、労働団体、金融機関等の外部有識者で構成する組織、外部有識者による「みよし市まち・ひと・しごと創生会議」の意見を集約し策定しました。また、第1期総合戦略と同様に、基本目標及び基本的施策の達成状況をKPIで検証します。そして、互いに連携を図りながら本総合戦略の推進に取り組めます。

基本目標や基本的施策の推進にあたっては、策定時目標、進捗状況やKPIの達成状況について、庁内組織及び外部有識者で構成する会議にて検証し、第2期総合戦略の推進に取り組めます。

第6節 第2期総合戦略への方向性

第1期総合戦略の基本目標ごとの数値目標の達成状況や、施策・取組ごとの KPI の達成状況に基づき、第2期総合戦略の方向性を、以下のとおりとします。

■基本目標Ⅰ 安心して子育てできる環境づくり

子ども・子育てに関する支援、学校教育の充実、仕事と生活の調和に関する支援を行い、基本的施策の目標値は概ね達成されました。そこで、引き続き第2期総合戦略でも継続するとともに、さらに、出産に対する支援の充実、子育てを楽しむ環境づくりや家庭教育の充実、教育現場における ICT の活用や少人数学級・指導といった新しい生活様式を取り入れた学校教育の充実、育児サポートの充実を推進させるよう取り組んでいきます。

■基本目標Ⅱ 暮らしたいと思える環境づくり

多様な世代を誘引する仕組みづくり、公共交通ネットワークの確保、安全・安心なまちづくり、魅力と活力のあるまちづくりに関する支援を行い、基本的施策の目標値は概ね達成されました。そこで、引き続き第2期総合戦略でも継続するとともに、さらに、テレワークの活用などによる企業競争力の強化支援、MaaS の考えを取り入れた公共交通の利用環境の向上、新しい生活様式を踏まえた防災対策の推進、関係人口・交流人口を増加させる魅力のあるまちづくりを推進させるよう取り組んでいきます。

■基本目標Ⅲ 誰もが健康に暮らせる環境づくり

健康づくりや生きがいづくりに関する支援を行い、基本的施策の目標値は概ね達成されました。そこで、引き続き第2期総合戦略でも継続するとともに、健康アプリの活用や地域包括ケアシステムの活用などによる健康づくりのさらなる支援、ニーズに合わせた魅力的な講座の開催など、誰もが生涯にわたって活躍できる場の支援を推進させるよう取り組んでいきます。

第7節 施策の体系（基本目標）

第2期総合戦略では、新しい視点を加えて、国や県の基本目標や方向性を勘案し、次の3つを基本目標とし位置づけます。

また、それぞれの基本目標において、関連するSDGsのアイコンを示し、SDGsの視点を意識した中で、各施策に取り組んでいきます。

■基本目標Ⅰ

安心して子育てできる環境づくり

～安心して子どもを産み・育てることができる環境をみんなで築く～



■基本目標Ⅱ

暮らしたいと思える環境づくり

～住んでみたい、住みやすい環境をみんなで築く～



■基本目標Ⅲ

誰もが健康に暮らせる環境づくり

～子どもから高齢者まで主体的な健康づくりができる環境をみんなで築く～



第8節 具体的な取組

《基本目標Ⅰ 安心して子育てできる環境づくり》

～安心して子どもを産み・育てることができる環境をみんなで築く～

若い世代が安心して子育てできるまちを目指し、「安心して子どもを産み・育てることができる環境をみんなで築く」をスローガンに掲げ、「合計特殊出生率」・「出生数」の増加をめざします。



■重要業績評価指標 (KPI)

指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)
合計特殊出生率		
出生数		

基本的施策

①子ども・子育てに関する支援

共働き世帯にも対応した支援や家庭教育に対する支援などの充実により、保護者が安心かつ楽しんで子育てできる環境づくりを進めます。

取組内容

- ① 妊産婦や乳幼児への健康診査を充実することや、多胎児世帯への支援を行うことで、子どもを産み育てることができるよう【出産に対する支援の充実】などに取り組みます。
- ② 育児不安の軽減や子どもの健やかな成長の支援に向け【母子保健対策の充実】に取り組みます。
- ③ 任意の予防接種を受けやすくするなど、子どもにかかる医療費の経済的負担を軽減し、安心して必要な医療を受けられるよう【医療費助成の充実】に取り組みます。
- ④ 子育てに対する不安を軽減するため、子育てアプリの活用やふれあい広場の充実を推進し、子育てに関する多様な悩みに対する相談もできる【子育てを楽しむ環境づくり】に取り組みます。
- ⑤ 共働き世帯を対象とした保育についての多様なニーズに対応するため【保育サービスの充実】に取り組みます。
- ⑥ 図書館における蔵書数の充実を始め、地域で学べる活動への支援などによる【家庭教育の充実】に取り組みます。
- ⑦ 児童に関わる地域活動団体への支援などを通じて、児童が地域社会で過ごしやすい環境を整えるなど【児童の健全育成】に取り組みます。

■重要業績評価指標（KPI）

指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)
保育園待機児童数		
みよびよ登録者数		
乳幼児健診の受診率		
乳児家庭訪問の割合		

(具体的な事業)

- ・ 妊産婦・乳児健康診査事業
 - ・ 不妊治療費助成金事業
 - ・ 母子保健指導事業
 - ・ 乳幼児健康診査事業
 - ・ 子ども医療費支給事業
 - ・ 予防接種事業
 - ・ ファミリーサポート事業
 - ・ 子育て支援センター運営事業
 - ・ 児童発達支援事業
 - ・ 発達支援教室事業
 - ・ 保育園運営事業
 - ・ 保育園整備事業
 - ・ 家庭教育学級事業
 - ・ 思春期家庭教育講座事業
 - ・ 図書・逐次刊行物（新聞・雑誌等）整備事業
 - ・ 家庭教育地域活動推進事業
- など

基本的施策

②学校教育の充実

ICT の活用や新しい生活様式を踏まえ、心豊かでのびのびとした子どもの育成を目指し、魅力ある学校づくり・良好な教育環境整備を進めます。

取組内容

- ①新しい生活様式に対応するとともに、多様できめ細かな指導を実現するため、少人数による指導やICTなどを活用した【教育環境の充実】に取り組めます。
- ②いじめや不登校の減少に向け、悩みを抱える児童生徒や保護者を支援する相談体制を整えるとともに、児童生徒一人ひとりの良さが発揮できる【魅力ある学校づくり】に取り組めます。
- ③子どもが快適に安心して学べるよう、教育相談体制や教育研究・研修の充実、職場体験の充実、近隣大学との連携など【良好な教育環境の整備】に取り組めます。

■重要業績評価指標（KPI）

指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)
学校が楽しいと思う児童の割合		
学校が楽しいと思う生徒の割合		
タブレット端末を活用した授業が分りやすい・楽しいと感じる児童の割合		
タブレット端末を活用した授業が分りやすい・楽しいと感じる生徒の割合		
不登校児童数		
不登校生徒数		

(具体的な事業)

- ・少人数学級・指導の推進
- ・現職教育事業
- ・小中学校コンピュータ整備事業
- ・みよし市教育センター事業
- ・小中学校整備事業
- ・キャリア教育の推進
- など

基本的施策

③仕事と生活の調和に関する支援

子育て世帯が仕事と子育てを両立し、多様な働き方により、子育てに喜びを感じることができる環境づくりを進めます。

取組内容

- ①子育て世帯が仕事と子育てを両立できるよう、放課後児童クラブの充実や子どもの預かり施設の活用、妊娠期から出産、子どもの学童期までの間、支援を行うみよし市版ネウボラの推進など【育児サポートの充実】に取り組みます。
- ②就労の場の確保及び雇用の促進に向けた就労支援セミナーの開催により【子育て世代の就労支援】を取り組みます。

■重要業績評価指標（KPI）

指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)
産後ホームヘルプの利用者数		
産後ケアの利用者数		
要支援者の支援プラン作成者数		
ファミリーサポートセンター利用者数		
放課後児童クラブ待機児童数		

(具体的な事業)

- ・ 保育園運営事業
- ・ ファミリーサポート事業
- ・ 放課後児童健全育成事業
- ・ 母子保健指導事業
- ・ 就労支援雇用安定事業
- ・ 院内保育所運営
- など

《基本目標Ⅱ 暮らしたいと思える環境づくり》

～住んでみたい、住みやすい環境をみんなで築く～

多様な世代が、安全・安心にいつまでも暮らしたいと思えるまちを目指し、「住んでみたい、住みやすい環境をみんなで築く」をスローガンに掲げ、「転入・転出人口比率」・「生産年齢（15～64歳）人口比率」の増加を目指します。



■重要業績評価指標（KPI）

指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)
転入・転出人口比率※		
生産年齢（15～64歳）人口比率		

※転入・転出人口比率：転入者数÷転出者数

基本的施策

①多様な世代を誘引する仕組みづくり

多様な世代が働きやすく、いつまでも住み続けたいと思えるような環境づくりを進めます。

取組内容

- ①多様な世代の誘引を目指すため、結婚や多世代同居など新たな住宅取得に対する改修費用の助成、空き家対策、低未利用地の解消など【住宅に関する支援】を検討します。
- ②世代間住み替えに関する支援を充実することで、円滑な世代交代が可能なまちとなるよう【世代循環の仕組みづくり】を検討します。
- ③移住や就職を促進するためのインターンシップの支援や雇用継続の支援、誰もが働きやすい就労環境の充実など【雇用対策の充実】に取り組みます。
- ④市外からの企業誘致や市内企業の事業拡大のため、新たな企業立地に向けた環境の整備など【企業誘致の推進】に取り組みます。
- ⑤目まぐるしく変わる時代に応じた新たな製品・サービスを提供するベンチャー起業家への支援や起業のための説明会など【創業の支援】に取り組みます。
- ⑥新しい生活様式に対応し、多様な働き方が実現できるようコワーキングスペースの確保やテレワークの推進、企業版 BCP 策定の支援など、事業の高度化・効率化等による【企業の競争力の強化の支援】に取り組みます。

■重要業績評価指標（KPI）

指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)
起業者数		
就労者数		

(具体的な事業)

- ・ 建築相談等事務
- ・ 都市計画決定事務
- ・ 就労支援雇用安定事業
- ・ 障がい者自立支援事業
- ・ 企業立地推進事業
- ・ ベンチャー起業家支援奨励事業
- ・ 商工業活性化補助事業
- ・ 公害防止啓発事業

など

基本的施策

②公共交通ネットワークの確保

公共交通の利便性を高め、誰もが安心して安全に移動できる環境の整備を進めます。

取組内容

市内における公共交通相互間の乗継の利便性を高め、利用しやすい公共交通体系とすることや、さんさんバス路線をはじめとする MaaS の推進といった【公共交通の利用環境の向上】に取り組みます。

■重要業績評価指標（KPI）

指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)
公共交通全体の年間利用者数		
さんさんバスの年間利用者数		

(具体的な事業)

・公共交通推進事業

など

基本的施策

③安全・安心なまちづくり

あらゆる自然災害にも対応でき、犯罪や交通事故のない安全なまちを目指し、安全・安心に暮らせる環境づくりを進めます。

取組内容

- ①災害時においても新しい生活様式を取り入れた避難所・運営体制の整備や、市民一人ひとりの防災に対する意識の醸成など【防災力・減災力の向上】に取り組めます。
- ②誰もが安全・安心に暮らせるよう、昼夜の防犯パトロールの実施、防犯カメラ・防犯灯の設置推進、地区での自主防犯パトロール隊への支援など【防犯力の向上】に取り組めます。
- ③子どもから高齢者まで、誰もが安全・安心に移動できるよう、通学路の整備や幹線道路でのバリアフリー化、安心な生活道路の整備など【交通安全対策の推進】に取り組めます。

■重要業績評価指標（KPI）

指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)
市内での火災出動件数		
市内での人身交通事故件数		
市内での犯罪発生件数		

(具体的な事業)

- ・ 建築相談等事務
 - ・ 準用河川改修事業
 - ・ 雨水排水整備事業
 - ・ 消防団運営管理事業
 - ・ 防災意識普及啓発事業
 - ・ 災害対策用品購入事業
 - ・ 防災計画策定見直し事業
 - ・ 防犯推進事業
 - ・ 交通安全施設整備事業
 - ・ 道路改良事業
 - ・ 里道整備事業
 - ・ 通学路表示対策事業
- など

基本的施策

④魅力と活力のあるまちづくり

市民一人ひとりが、わが街に誇りと愛着を持ち、みよしの新たな魅力の発見ができる環境づくりを進めます。

取組内容

- ①市民一人ひとりが、まちに誇りと愛着を持ち、市民による市内外への魅力発信や、移住・定住の促進に向け、地域資源を活用した魅力の発信など【シティブランディングの推進】に取り組みます。
- ②アートのまちや資料館展示事業の推進や、歴史体感講座の開催など【まちの魅力の向上】を検討します。
- ③地域活動の拠点となる地区拠点施設の整備や、文化交流・スポーツ交流の推進など【まちの活力の向上】に取り組みます。
- ④ふるさと納税制度やシティプロモーションの推進、軽トラ市の開催などを通して【関係人口・交流人口の拡大】に取り組みます。
- ⑤みよしの新たな魅力の発見・発信の促進をはじめとして、市民や大学などと行政が連携を図り、まちづくりの担い手となる人材の育成など【協働のまちづくり】に取り組みます。
- ⑥市民一人ひとりが、まちに誇りと愛着が持てるよう、地域で生産された農作物を地域内で消費拡大するため、地元産の新鮮な農作物を消費者に直接販売する「産地直売」の促進や産直施設のPRなど【地産地消の推進】に取り組みます。
- ⑦適度な気候と肥よくな土地に恵まれた本市は、柿、梨、ブドウをはじめ多くの農産物があることから、1次産業としての農業から、加工・流通・販売を総合的かつ一体的な推進を図る6次産業化を推進する【みよし産農産物のブランド化の推進】に向けた取り組みを検討します。

■重要業績評価指標（KPI）

指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)
観光客数		
ふるさと納税の寄附件数		

(具体的な事業)

- | | | |
|--|---|----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税返礼品PR事業 ・食育推進事業 ・計画行政事業 ・企業立地推進事業 ・石川家住宅管理事業 ・資料館展示事業 ・地区拠点整備事業 | <ul style="list-style-type: none"> ・士別市交流事業 ・カヌー競技推進事業（全国大会の実施） ・緑と花のセンター管理事業 ・協働によるまちづくり推進事業 ・多文化共生推進事業 ・公害防止啓発事業 ・地場産業振興事業 | など |
|--|---|----|

《基本目標Ⅲ 誰もが健康に暮らせる環境づくり》

～子どもから高齢者まで主体的な健康づくりができる環境をみんなで築く～

市民一人ひとりが健康で、生涯を通して活躍できるまちを目指し、「子どもから高齢者まで主体的な健康づくりができる環境をみんなで築く」をスローガンに掲げ、「健康寿命」・「成人のスポーツ実施率の割合」の増加をめざします。



■重要業績評価指標（KPI）

指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)
健康寿命		
成人のスポーツ実施率の割合		

基本的施策

①健康づくりの支援

住み慣れた地域で、市民一人ひとりが生涯を通し健康で生き生きと暮らせる環境づくりを進めます。

取組内容

- ①市民がバランスの取れた規則正しい食生活や体力づくりができるよう、健康アプリの活用やスポーツ習慣のきっかけを促すチャレンジデーの開催など【健康づくりの推進】に取り組みます。
- ②地域包括ケアシステムの推進など、これからの高齢社会に向けた、市民の【健康寿命の延伸】に取り組みます。
- ③高齢者が健康で生き生きと暮らせるよう健康づくり活動への支援や、認知症予防に対する支援の充実など【介護予防・認知症予防の推進】に取り組みます。
- ④高齢者を始め、子どもや子育て家庭、障がい者など、地域で生活する全ての市民が共に助け合い安心して生活できる地域を目指し【地域包括ケアシステムの構築】に取り組みます。
- ⑤成人を対象としたスポーツ教室やスポーツ習慣のきっかけを促すチャレンジデーの開催により、皆がスポーツをすることで、楽しく豊かな人生が送れるよう【スポーツによる健康づくり】に取り組みます。
- ⑥多様な世代が気軽に運動できるよう、総合公園から街区公園まで、それぞれの公園の特性を生かした【良好な運動環境づくり】に取り組みます。

■重要業績評価指標（KPI）

指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)
1人あたりの公園面積		
総合体育館トレーニングルームの年間利用者数		
健康アプリ登録者数		
介護予防教室の参加者数		
要介護（要支援）認定をうけていない高齢者の割合		

（具体的な事業）

- ・健康教育事業
 - ・食育推進事業
 - ・スポーツ推進委員等運営事業
 - ・健康診査事業
 - ・地域包括支援センター運営事業
 - ・介護予防普及啓発事業
 - ・認知症総合支援事業
 - ・在宅医療・介護連携推進事業
 - ・生活支援体制整備事業
 - ・スポーツ教室開催事業
 - ・健康相談事業
 - ・都市公園整備事業
- など

基本的施策

②生涯活躍できるまちづくり

市民一人ひとりが生涯を通じ、食文化や郷土を愛し、多様な場において活躍できるまちづくりを進めます。

取組内容

市民ニーズに即した講座の開催や高齢者が培った知識・経験を生かした活動の場の創出など【誰もが活躍できる環境づくり】に取り組みます。

■重要業績評価指標（KPI）

指標	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)
認知症サポーターの登録人数		

(具体的な事業)

- ・みよし悠学カレッジ講座運営事業
- ・高齢者いきいき活動ポイント事業
- ・ファミリーサポート事業
- ・放課後児童健全育成事業
- ・就労支援雇用安定事業
- ・多文化共生推進事業
- ・障がい者自立支援事業
- ・食育推進事業
- ・協働によるまちづくり推進事業
- ・健康教育事業
- ・地域包括支援センター運営事業
- ・地域ささえあい体制づくり事業 など

【施策の体系】

基本目標	基本的施策	取組方針
I 安心して子育て できる環境づくり	①子ども・子育てに関する支援	出産に対する支援の充実
		母子保健対策の充実
		医療費助成の充実
		子育てを楽しむ環境づくり
		保育サービスの充実
		家庭教育の充実
		児童の健全育成
	②学校教育の充実	教育環境の充実
		魅力ある学校づくり
		良好な教育環境の整備
③仕事と生活の調和に関する支援	育児サポートの充実	
	子育て世代の就労支援	
II 暮らしたいと思え る環境づくり	①多様な世代を誘引する仕組み づくり	住宅に関する支援
		世代循環の仕組みづくり
		雇用対策の充実
		企業誘致の推進
		創業の支援
	②公共交通ネットワークの確保	企業の競争力の強化の支援
		公共交通の利用環境の向上
	③安全・安心なまちづくり	防災力・減災力の向上
		防犯力の向上
		交通安全対策の推進
	④魅力と活力のあるまちづくり	シティブランディングの推進
		まちの魅力の向上
		まちの活力の向上
		関係人口・交流人口の拡大
		協働のまちづくり
		地産地消の推進
みよし産農産物のブランド化の推進		
III 誰もが健康に暮 らせる環境づくり	①健康づくりの支援	健康づくりの推進
		健康寿命の延伸
		介護予防・認知症予防の推進
		地域包括ケアシステムの構築
		スポーツによる健康づくり
		良好な運動環境づくり
	②生涯活躍できるまちづくり	誰もが活躍できる環境づくり

第9節 自治体SDGsの推進に資する取組

本市の基本目標は、第7節「施策の体系（基本目標）」のとおり位置づけております。これらの目標に沿って設定した施策について、SDGs（持続可能な開発目標）を原動力とし推進していくことで、第2期人口ビジョンの実現を図ります。

SDGs（エスディーゼーズ）とは、平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された令和12（2030）年を期限とする、先進国から発展途上国までを含む国際社会全体の開発目標です。持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットで構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。



将来へ向けてのあるべき姿

みよし市がめざす都市将来像（第2次みよし市総合計画）

“みんなで育む 笑顔輝く ずっと住みたいまち”の実現

- 「みんなで育む」 : 市民が、自らできる役割を担い、みんなでまちづくりを進めていきます。
- 「笑顔輝く」 : まちには活気があふれ、子どもから高齢者まで誰でもが健康で明るく生き生きと、輝く「笑顔」で暮らすことのできる魅力あるまちを目指します。
- 「ずっと住みたいまち」: 誰もが「住みやすいまち」からずっと「住み続けたいまち」と思える持続的に発展するまちを目指します。

将来へ向けてのあるべき姿



SDGs ウェディングケーキモデルは、SDGs の目標 17 をケーキの頂点として、その下にある 3 つの階層「経済」「社会」「環境」によって構成されています。

この 3 つの階層の並び方はそれぞれ意味があり、「経済」の発展は、生活や教育などの社会条件によって成り立ち、「社会」は最下層の「環境」、つまりは人々が生活するために必要な自然の環境によって支えられていることを表しています。

本市における SDGs の推進に資する主な取組

経済	社会	環境
<ul style="list-style-type: none"> ・雇用の充実 ・創業支援 ・企業版 BCP 策定支援 ・テレワークの活用 ・関係人口・交流人口の拡大 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりに関する支援 ・女性、高齢者、障がい者の生涯活躍 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て環境整備の支援 ・学校教育の充実 ・地域防災の推進 など

用語解説

用語	説明
合計特殊出生率	15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。
健康寿命	日常的・継続的な医療・介護に依存しないで、自分の心身で生命維持し、自立した生活ができる生存期間のこと。
IoT	Internet of Things の略。モノのインターネット。コンピューターなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在するさまざまな物体（モノ）に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信したりすることにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うこと。
AI	Artificial Intelligence の略。人工知能。言語の理解や推論、問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピューターに行わせる技術。
Society5.0	狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する社会。
SDGs	Sustainable Development Goals の略。平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された令和12（2030）年までの国際目標。
関係人口	移住した「定住人口」でもなく、観光などで来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。地方圏は、人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面しているが、地域によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が地域に入り始めており、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されている。
交流人口	地域との関わりが少なく観光などで来る人のこと。
MaaS	Mobility as a Service の略。情報通信技術を活用することによりあらゆる交通手段による移動を一つのサービスとして捉え、継ぎ目なくつなぐ新たな概念のこと。
テレワーク	情報通信技術を活用して、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと。

KPI	Key Performance Indicator の略。目標の達成度合いを図るために、継続的に計測・監視される定量的な指標のこと。組織や個人が日々活動、業務を進めていくにあたり、「何を持って進歩とするのか」を定義するために用いられる尺度。
転入・転出人口比率	転入者数 ÷ 転出者数。

◆提出された意見（6名分）

1 第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証についての意見

頁	項 目	意見の内容	対応
2	総合戦略数値目標K P Iの 検証1	安全で快適な住環境の満足度が33%で最低であったが、これは公共交通対策の満足度がそのまま反映されたのではないかと考える。質の向上が必要である。	公共交通については、現状の課題等を踏まえ、路線やダイヤの見直しを進めていきます。 公共交通を始め、住環境の向上につながるよう施策の展開を進めていきます。
3	総合戦略数値目標K P Iの 検証1	②生きがいづくりの支援に関して、生涯学習講座数の充実に対し、受講者数が減少している要因の1つに、地域住民への周知・P R不足が考えられるため、高齢者向けの情報提供の場（就活フェアなど）を増やしてはどうか。	イベントのP R不足については、通年の課題であります。広報誌やHPのみでなく、SNSなども活用するとともに、地域の方々に情報が伝わるよう広く市のP R方法を検討することを検討します。 高齢者向けのイベントにつきましても、地域と連携したイベントを推進することで生きがいづくりにつながると考えるため、さらなる展開を検討していきたいと思えます。
4	総合戦略数値目標K P Iの 検証2	各基本目標のR元年度末の満足度がH26基準値をすべて下回っている。H26の基準値がどのようなものであるか。それぞれがアンケート調査であるとする、項目に大きな違いがあるのか。	満足度は毎年12月に市が実施している「行政評価アンケート」の数値で確認しています。 R元年度から第2次総合計画に伴う新施策での設問内容への変更はありましたが、基本的には毎年度大きな違いはありません。 満足度については、前年度からの上乘せがないと向上しないと分析をしています。 第2期総合戦略については、基本目標にあった数値目標を再検討していきたいと考えています。

5	総合戦略数値目標K P Iの 検証2	今までにない視点として、働く場が豊富（市内に事業所も多い）という市の強みを踏まえ、昨今のコロナウイルスを始めとした感染症などへの企業としての対策を含む「防災」をテーマとした企業向けの取り組み（BCP等）も加えたらどうか。	企業に対してのBCP策定につきましては、市から補助金を交付しています。 企業のニーズにあった支援策を検討していきたいと思っています。
5	総合戦略数値目標K P Iの 検証2	「Ⅱ暮らしたいと思える環境づくり」の「安全で快適な住環境」に関する項目の評価（満足度）が特に低い。ここをクリアするためには、駅前地区の商業・生活機能の活性化が欠かせないのではないかと。	三好ヶ丘駅は本市の「北の玄関口」と位置づけています。駅前の活性化については積年の課題でありますので、活性化の方法について検討を進めていきたいと思っています。
5	総合戦略数値目標K P Iの 検証2	みよし市において、目指すべき「交流人口」とは、どこから来た人が、誰と交流することを念頭においているのか。例えば南部地区の農業資源を交流資源として想定することはあるか。	交流人口は観光などで本市を訪れる人であると考えており、具体的には市外から3大まつりに来訪した人が、本市のことを知るきっかけになればと考えています。 また、総合体育館や三好池カヌー競技場を利用するスポーツ関係者が関係人口に位置づけることができると考えています。 さんさんの郷などのイベントが、南部地区の農業資源が交流資源としてなり得るのであれば、施策について検討していきたいと思っています。ただし、現在、具体的なイメージは描けていません。
5	総合戦略数値目標K P Iの 検証2	「AIやSociety5.0の視点」に関連して、東海学園大学経営学部では経営情報論を専門とした実務経験を有した博士が2020年4月より在籍しているため、こういった教員リソースを活かして政策形成などにおいて大学と連携してはいかがでしょうか。	AIやSociety5.0については、施策に位置づける必要があると考えています。大学と連携してコミュニティビジネスにつなげるような方法があれば、積極的に実施していきたいと思っています。

5	総合戦略数値目標 K P I の 検証 2	「SDGsの視点」に関連して、みよし市と東海学園大学の学生や教員とより連携を密にしてSDGsの普及活動を推進し、「持続可能なまち」をシビックプライドに繋げてはいかがでしょうか。	SDGsを推進する上でステークホルダーとの連携は欠かせないと考えており、また本市単独の取組だけでなく、大学や企業など様々な分野との連携が必要と考えておりますので、連携方法について検討していきたいと思えます。
5	総合戦略数値目標 K P I の 検証 2	方向性の4つ目 シビックプライドの醸成とは。またそれが長期的な人口の安定とどう結びつくのか。	シビックプライドとは都市に対する「誇り」や「愛着」のことで、みよし市に愛着を持ってもらわないと、最終的には定住しようとは思わないと考えられます。 例として、大学進学で一旦はみよし市から離れても、自らのふるさとはみよし市であると思ひ、将来的にはUターンしたいと思ってもらふ事であると考えています。 本市ではみよし市で育った人を対象にシティプロモーションをすることで、大学などで本市を離れても、就職する時に本市に帰ってきてもらうことで、最終的に定住につながると考えています。
6	総合戦略数値目標 K P I の 検証 2	コロナウイルスによる一般的な働き方の変化（在宅勤務等の推進）により、在宅勤務がしづらい子育て家庭や共働き家庭への、近所のワークスペースの提供や夫婦で在宅勤務できる住宅設計等がクローズアップされている。みよし市でも同様のことが起きているのであれば、（空き家の有効活用など）検討できないか。	コロナ禍における働き方や事務の進め方などについて、考えさせられる状況にあります。 本市には空き家バンク制度がありますが、実際空き家としての登録は0であります。その理由から検証し、空き家が活用できると判断される場合については、検討を進めていきたいと思えます。

6	総合戦略数値目標K P Iの 検証 2	<p>企業向けの施策に関して、テレワーク推進企業の発掘だけでなく、地域企業を対象にしたテレワークを始めとする新たな生活様式を踏まえた制度導入に向けた取組を追加する必要があるのではないか。</p> <p>(今までにはない視点として方向性に位置づけしている、新しい生活様式の色を濃くする施策が必要である。)</p>	<p>テレワークも含めて新しい生活様式の施策を推進することは、現在の社会情勢を鑑みると重要であると思います。</p> <p>まずは、地域企業のニーズを把握することが必要だと思いますので、施策実施に向けて検討を進めていきたいと思っています。</p>
6	総合戦略数値目標K P Iの 検証 2	<p>M a a Sの推進において、具体策の1つとして「さんさんバス」等のオンデマンド化を検討してはどうか。</p> <p>※利用者数は目標以上であるが、満足度が低い</p> <p>※人口流出入によると、県内における転出入が多くあり、通勤しやすい等の利便性の向上が理由の1つではないかと考えられる。</p> <p>※医療・福祉従事者も多く（特に女性）、コロナ対策としての医療従事者向けオンデマンド等の検討は考えられないか。</p>	<p>現在、さんさんバスと一体となり、バス路線でカバーできないエリアについては、デマンド型で乗合タクシーを運行しております。</p> <p>この他のデマンド型の運行は、バス路線再編の中の1つの方策として考えていきます。</p> <p>将来的な高齢化により、高齢者への対応が必要であり、移動手段、移動の確保の点からM a a Sが貢献できる余地は大きく、公共交通について近い将来、情報通信技術を活用することで、予約から支払など関連するサービスが一体となったM a a Sを視野にいたより住みやすいまちづくりを目指していきたいと思っています。</p>
6	総合戦略数値目標K P Iの 検証 2	<p>安全・安心なまちづくりでは「交通安全」や「安全運転意識の醸成」に資する取組も幅広い世代に対する検討施策の1つになり得ると考えられる。</p> <p>※テレマティクス技術を活用した安全運転推進イベント開催に伴う支援・講習などが可能</p>	<p>現在も「交通安全」や「安全運転」などの施策を行っていますが、今以上の高齢化を見据えた施策の検討を実施したいと思っています。</p>

6	総合戦略数値目標 K P I の 検証 2	みよし市に暮らしたいと思える環境整備のために、例えば駅前地区にアグリパーク（農産物直売所）を設立して地産地消体制を構築するとともに、保育所を作って電車で通勤する人の保育機能を向上させる。また、IT環境を整えたコワーキングスペースを設置してテレワーク環境やNPO法人・新規起業家のインキュベーター施設を提供したり、高齢者や子どものフリースペースを作るなど健康と子育ての機能の充実を図る。自由に使える駐車場をつくり、駅と直結させることでパーク・アンド・ライド機能を持たせる。特に、将来的によりいっそう高齢化が進んだ場合、徒歩500m圏内で新鮮な食材が手に入らない「フードデザート問題」が発生する可能性がある。そうした問題を解決するための多機能施設を駅連動させるという発想が必要ではないか。	<p>保育所整備に関しては、女性活躍に欠かせないと考えております。</p> <p>カリヨンハウスの利活用をすることで、コワーキングスペースなどと子育て支援が一体化された機能の充実を図ることができる可能性がありますので、検討をしていきたいと思っております。</p> <p>ご指摘のとおり、子育てや健康・起業支援などは今後の施策の中で重要な施策と考えておりますので、そうした視点を含めて施策などを検討していきます。</p>
6	総合戦略数値目標 K P I の 検証 2	転入人口の向上に資するために、大学生の居住機能を高める目的で、三好丘団地内の空き部屋を安く提供するなども考えたかどうか。	三好丘団地の空き部屋の利活用については、空き家とも絡めて、今後の可能性を含めて検討をしていきたいと思っております。
6	総合戦略数値目標 K P I の 検証 2	「地域スポーツ振興事業」に関連して、東海学園大学経営学部ではスポーツ政策論・スポーツ経営論を専門とした地方公共団体での実務経験を有した教員が2020年4月より在籍しているため、こういった教員リソースを活かして政策形成などにおいて大学と連携してはいかがでしょうか。	大学と連携してコミュニティビジネスにつながるような事業があれば、実施していきたいと思っております。
6	総合戦略数値目標 K P I の 検証 2	「健康アプリ」の開発などに関連して、例えばアプリと連動したウォーキングイベントを行い、東海学園大学からも参加して、地域コミュニティの形成を促進してはいかがでしょうか。	健康アプリについては、令和2年度に試験的に導入し、令和3年度から本格的な導入を検討しています。このアプリを使ってマイレージの活用により、地域活性化につながるような施策を検討していきたいと思っております。

6	総合戦略数値目標 K P I の 検証 2	合計特殊出生率の向上について、子どもが多いほど「得」する施策が必要ではないか。	本市の合計特殊出生率は1.81と全国的にも高水準であります。年々出生数も減少傾向となっております。子どもが多いほど得になる施策については、今後検討していきたいと思っております。
6	総合戦略数値目標 K P I の 検証 2	市内教育施設（学校）の魅力向上を追加 三好高校や東海学園大学への支援	市内の教育施設との連携は必要不可欠であると考えていますので、今まで以上に連携を深める施策の展開を検討していきたいと思っております。

2 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定についての意見

頁	項目	意見の内容	対応
1	人口ビジョン	<p>みよし市の居住可能人数は何人か。 2038年65,000人に到達した際の世代別割合は。 長期的に人口減が見込まれるのであれば、出生率2.07を目指すべきではないか。</p>	<p>令和2年7月1日現在の年少人口は9,262人、生産年齢人口は40,801人、老年人口は11,067人です。 合計特殊出生率は1.81であり、全国的にも高い数値であると考えています。(最新数値は1.80) この数値を2.07にすることがベストではありますが、現実的に子どもを産むことができる人数が減っているという現状を踏まえ1.81を維持することを目標としています。</p>
全般	SDGs全般	<p>SDGsの視点の盛り込み方については、資料のとおり、自治体を実施する施策の紐づけも重要である。一方で地域企業のSDGsへの意識付け(SDGs宣言等)やSDGs教育の普及など、広く発信していくことが必要である。基本目標の施策にこのような要素を入れ込むことも検討できるのではないか。</p>	<p>SDGsは様々なステークホルダーとのパートナーシップにより推進していく方が、より効果的であると考えていますので、方法を含めて検討をしていきたいと思えます。</p>
5	「2030年までに達成すべき17の目標」と「第2期総合戦略基本目標」との関係	<p>「2030年までに達成すべき17の目標」と「第2期総合戦略基本目標」との関係が示されているが、「海の豊かさを守ろう」がどうかかわるのか。他の項目もグローバルすぎて、3つの基本目標に分けるのは難しいのでは。</p>	<p>施策を実施する上でSDGsの考え方を取り入れることが、求められています。 本市は海がありませんが、リサイクル活動を推進することで、プラスチックが減少し海洋ゴミを減らせると思いますので、そのような施策を進めることで、環境問題にも積極的に取り組んでいることをPRすることが住みよいまちであるということにつながると考えています。 また、SDGs推進については、様々な相関性があるので、それを整理することで3つの基本目標に位置づけをしていきたいと思っています。</p>

みよし市まち・ひと・しごと総合戦略 数値目標・KPIの検証

S:達成割合 ≥ 100%
 A:100% > 達成割合 ≥ 80%
 B:80% > 達成割合 ≥ 60%
 C:60% > 達成割合

【参考2】

基本目標	基本的施策	数値目標・KPI		実績		達成割合		
				令和元年度末	H26年度 (基準値)	令和元年度 (目標値)	実績(令和元年度末)÷ 目標値(令和元年度)	評価
I 安心して 子育てできる 環境づくり		子育て支援の満足度(%)		39.9%	52.4%	58.0%	69%	B
		教育の充実の満足度(%)		41.7%	56.3%	62.0%	67%	B
	①結婚・出産の 希望に関する支 援	男女の出会いの場参加者数(人)		53	-	100	53%	C
		男女の出会いの場参加者による結婚成立組数(累計)(組)		5	-	15	33%	C
		出生数(人)		546	656	690	79%	B
		婚姻率(%)		5.2%	5.7%	6.0%	87%	A
	②子ども・子育て に関する支援	児童館・集会所 年間延べ利用者数(人)		100,623	132,294	135,000	75%	B
		子育てふれあい広場年間延べ利用親子組数(組)		24,670	21,400	30,000	82%	A
		休日保育利用者数(人)		464	134	650	71%	B
		子ども会加入率(%)		79%	84%	90%	88%	A
	③学校教育の充 実	少人数学級(35人学級)の実施状況	小学校	全学年	小学校第1～3学年	小学校第1～4学年	100%	S
			中学校	全学年	中学校第1学年	中学校第1～2学年	100%	S
		学校評価アンケートで「学校は楽しい」と回答した児童生徒の割合(%)	小学校	92.0%	92.1%	95%	97%	A
			中学校	88.5%	89.5%	92%	96%	A
		普通教室への空調機器設置率(%)	小学校	100%	-	100%	100%	S
			中学校	100%	-	100%	100%	S
	④仕事と生活の 調和に関する支 援	放課後児童クラブ年間利用児童数(人)		491	376	480	102%	S
		3歳未満児入園者数(人)		395	310	430	92%	A
		就労支援セミナーの開催(回)		12	-	10	120%	S

みよし市まち・ひと・しごと総合戦略 数値目標・KPIの検証

S:達成割合 ≥ 100%
 A:100% > 達成割合 ≥ 80%
 B:80% > 達成割合 ≥ 60%
 C:60% > 達成割合

【参考2】

基本目標	基本的施策	数値目標・KPI	実績		達成割合		
			令和元年度末	H26年度 (基準値)	令和元年度 (目標値)	実績(令和元年度末)÷ 目標値(令和元年度)	評価
Ⅱ 暮らしたい と思える環境 づくり		緑豊かで快適な美しいまちづくりの満足度(%)	46.9%	68.4%	74.0%	63.4%	B
		安全で快適な住環境が整ったまちづくりの満足度(%)	33.4%	57.5%	63.0%	53.0%	C
	① 多様な世代を 誘引する仕組み づくり	住宅着工件数(棟)	243	379	380	63.9%	B
		転入・転出人口比率(%)	95.0%	99.6%	102.0%	93.1%	A
		起業・創業件数(累計)(件)	21	0	3	700.0%	S
		新たな進出企業数(累計)(件)	1	0	2	50.0%	C
	② 公共交通ネッ トワークの確保	さんさんバス利用者数(人)	280,590	269,786	272,000	103.2%	S
		名鉄バス利用者(人)	41,223	40,513	42,000	98.2%	A
		駅乗降者数(黒笹駅・三好ヶ丘駅)(人)	4,833,749	4,257,538	4,410,000	109.6%	S
		公共交通対策の満足度(%)	33.4%	40.0%	55.0%	60.7%	B
	③ 安全・安心な まちづくり	防災訓練参加率(%)	28.2%	17.2%	20.0%	141.0%	S
		防災ラジオ普及台数(累計)(台)	1,855	-	1,000	185.5%	S
		耐震診断実施件数(累計)(件)	857	526	930	92.2%	A
		耐震改修補助件数(累計)(件)	155	119	270	57.4%	C
		防犯灯設置数(累計)(基)	2,396	2,200	2,350	102.0%	S
		安全のみどり線延長距離(m)	14,347	7,772	17,000	84.4%	A
	④ 魅力と活力の あるまちづくり	シティプロモーション動画閲覧数(累計)(回)	32,286	-	4,000	807.2%	S
		NPO法人数(法人)	10	13	18	55.6%	C
		図書館来館者数(人)	269,905	80,556	289,000	93.4%	A

みよし市まち・ひと・しごと総合戦略 数値目標・KPIの検証

S:達成割合 ≥ 100%
 A:100% > 達成割合 ≥ 80%
 B:80% > 達成割合 ≥ 60%
 C:60% > 達成割合

【参考2】

基本目標	基本的施策	数値目標・KPI	実績		令和元年度 (目標値)	達成割合	
			令和元年度末	H26年度 (基準値)		実績(令和元年度末)÷ 目標値(令和元年度)	評価
Ⅲ誰もが健康に暮らせる環境づくり		福祉対策の充実の満足度(%)	39.2%	54.7%	60.0%	65.3%	B
		保健・医療対策の充実の満足度(%)	45.3%	66.3%	72.0%	62.9%	B
	①健康づくりの支援	要介護(要支援)認定を受けていない高齢者の割合(%)	87.4%	88.2%	89.0%	98.2%	A
		地域包括支援センターの設置数(ヶ所)	3	1	3	100.0%	S
		総合体育館トレーニングルームの年間利用者数(人)	18,528	4,213	10,000	185.3%	S
		都市公園の供用面積(ha)	54.99	51.81	55	99.98%	A
	②生きがいづくりの支援	生涯学習講座数(講座)	202	160	200	101.0%	S
		生涯学習講座受講者数(人)	2,334	2,563	4,500	51.9%	C
		生涯学習活動団体数(団体)	104	96	100	104.0%	S
		生涯学習活動人数(人)	1,918	1,914	2,000	95.9%	A
		発表会等行事参加団体数(団体)	123	115	120	102.5%	S
		発表会等行事参加者数(人)	15,907	9,576	10,000	159.1%	S
		福祉ボランティアの活動件数(件)	283	314	330	85.8%	A
		シルバー人材センターの登録会員数(人)	367	367	405	90.6%	A